

平成30年度入学試験問題 小論文問題

(岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科スポーツ文化専攻アウトドア・ライフコース)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開かないこと。
2. この問題冊子はページ番号1から3までの3ページです。
3. 解答用紙は2枚です。解答は解答用紙に横書きとし、句読点も1字分として、指定された字数にまとめること。ただし、題・氏名は記入しないこと。
4. 受験番号は解答用紙の指定欄に記入すること。
5. 下書き用紙は2枚です。
6. 解答用紙のみを提出し、問題冊子・下書き用紙は、試験終了後持ち帰ること。なお、いかなる理由があっても解答用紙以外は受理しません。
7. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

問題 次の文章を読み、後の設問 1 と設問 2 に答えなさい。

平成 23 年度のエゾシカの推定生息数は 64 万頭とされており、前年よりも 1 万頭減少しています。一方で農業被害額を見ても前年よりも 4.6 億円増加していることがわかります。頭数が減っているのになぜ被害が増えるのでしょうか？

エゾシカの狩猟期間は 10 月 1 日から 3 月 31 日までとなっており、農作物の収穫が一段落した秋から冬がハンターの狩猟による捕獲が認められている期間です。これ以外の期間、いわゆる農作物が実っていて、エゾシカの食害を最も受けやすい期間には法律で狩猟が禁止されているのです。狩猟期間以外にも有害鳥獣駆除による捕獲が行われていますが、これは一部のハンターにしか認められていません。畑や森林に防護柵を設置してエゾシカの侵入を防ぐという対策もありますが、結局はシカが右から左に移動するだけです。近年、エゾシカと車の衝突事故が増加していますが、個体数がそれほど減っていないことに原因があると考えられます。やはりエゾシカを捕獲しなければ問題の解決にはつながらないということがわかりました。

(中略)

エゾシカを捕獲する狩猟者が 30 年間で半分以下になり、さらに年々減少する傾向にあることがわかります。

理由としてはハンターの高齢化が指摘されていますが、その根底には高齢ハンターから新人ハンターに至るまで、様々な負担や規制があることに起因しています。

まずハンターになるためには、狩猟鳥獣を捕獲する「狩猟免許」と銃砲を所持するための「銃砲所持許可」の 2 種類の免許を取得することが必要です。

特に大変なのは銃砲所持許可です。銃砲所持許可を受けるには「筆記試験」とクレイ射撃で一定数の的中を条件とする「技能検定」という 2 つの関門をパスしなければなりません。この後も精神系病院での健康診断、書類提出や面接などで何度も警察に通い、さらに身辺調査や自宅訪問が行われ、銃砲を手にするまでに最短でも 6 ヶ月はかかります。さらにその後も毎年 1 回行われる銃検査と 3 年毎の所持許可更新という大きな負担がハンターに重くのしかかってきます。また、銃刀法の規制はとて厳しく、もし銃を車内に置きっぱなしにしたり、日の出前や日没後に発砲するとただちに検挙されます。こうしたことにすべて対応できなければ、銃を持つことは許されません。警察としては銃による犯罪や事故を防ぐことが最大の目的なので、銃を持つ人間をきちんと管理しておきたいというのはわかります。しかし、一方で銃所持に関する規制や負担がハンター減少の原因になっているのも事実なのです。

(中略)

銃砲があるからといってすぐにエゾシカが獲れるわけではありません。始めは猟友会のメンバーと一緒に狩猟に行き、エゾシカのいる場所や撃ち方を教えてもらいました。初心者の私にはどこにエゾシカがいるのか全然わかりませんが、ベテランのハンターは森の中に隠れているエゾシカを見つけ出し、300m 先にいる獲物をライフル銃によって一発で仕留めます。獲物の解体にしても、エ

ゾシカのどこをどう切ったらいいのかわからずオロオロしている私を尻目にベテラン達はあつという間に獲物を肉の塊に仕上げていきます。やはり1人前のハンターになるにはそれなりの経験を積みなければなりません。年々ハンターが減少している中でエゾシカを獲るための新たな担い手を育てる必要がありますが、そのためには長い時間がかかります。今のままではハンターの方が「絶滅危惧種」となりかねない状況です。

(中略)

最近の銃はとても性能がよくなっています。新人ハンターの私でもハープライフルという種類の銃を使用して50m程度の距離ならほぼ確実にエゾシカを捕獲することができます。ただ、問題なのは撃った後のエゾシカの処理です。エゾシカ1頭の重さは何十キロもあります。さらに肉をとった後の残滓(ざんし)を山中に放置するとクマを引き寄せる危険があるので適正に処理することが義務付けられています。その方法としては、捕獲・解体した場所に残滓を埋めて処理することが多いのですが、スコップでの穴掘り作業等に相当の労力を必要とするので1日に獲れる頭数には限界があります。また、冬の場合はシカの首にロープをかけてスキーで引っ張りながら急斜面を降ります。木にぶつかったり、穴に落ちたりと大変です。法律なので仕方ないとはいえ、ここまでしなければならないのかとも思います。

出典：沼田光弘(2013)、「エゾシカ問題の解決に向けて～ハンターの視点から～」コンサルタンツ北海道、第130号、59-61。一部改変

設問1

この文章を550～600字で要約しなさい。(100点)

設問2

エゾシカ問題を解決するために、本文の内容を踏まえて、具体的に有効だと思われる方法を550～600字で述べなさい。(100点)